

# 2001年度 中間決算説明資料

2001年11月

- 2001年度 連結中間決算の概要 P3
- 連結セグメント別の状況 P5
- 米国同時期の影響 P15
- 有利子負債・フリーキャッシュフロー P16
- 研究開発費・減価償却費・設備投資 P17
- 2001年度 単独中間決算の概要 P18
- 2001年度 通期の業績見通し P19

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

# 2001年度 連結中間決算の概要

(億円)

	'01中間	'00中間	増減
受注高	9,732	10,197	465
売上高	12,526	13,047	520
営業損益	203	232	28
経常損益	27	109	81
特別損益	131	402	271
税引前損益	103	293	189
当期損益	82	234	152

特別損益( 131)の内訳 投資有価証券等評価損 153  
 投資有価証券売却益 + 22

## 営業損益 増減要因 28億円

- 売上総利益 +134億円<内、単独 +162>
  - 為替の影響 +95億円  
ドル@¥114('00.1H) @¥119 他
  - 売上減少の影響 76億円
  - コストダウン +115億円 (含 .固定費削減)
- 販売費・一般管理費 162億円  
<内、単独 105>
  - R&D・開発費等増加 46億円  
(原動機関連、システム改革投資関連 他)
  - 貸倒関連 56億円('00.1H 52(益) 4)
  - 販売費等増加 60億円  
(原動機米国子会社、引合対応強化)

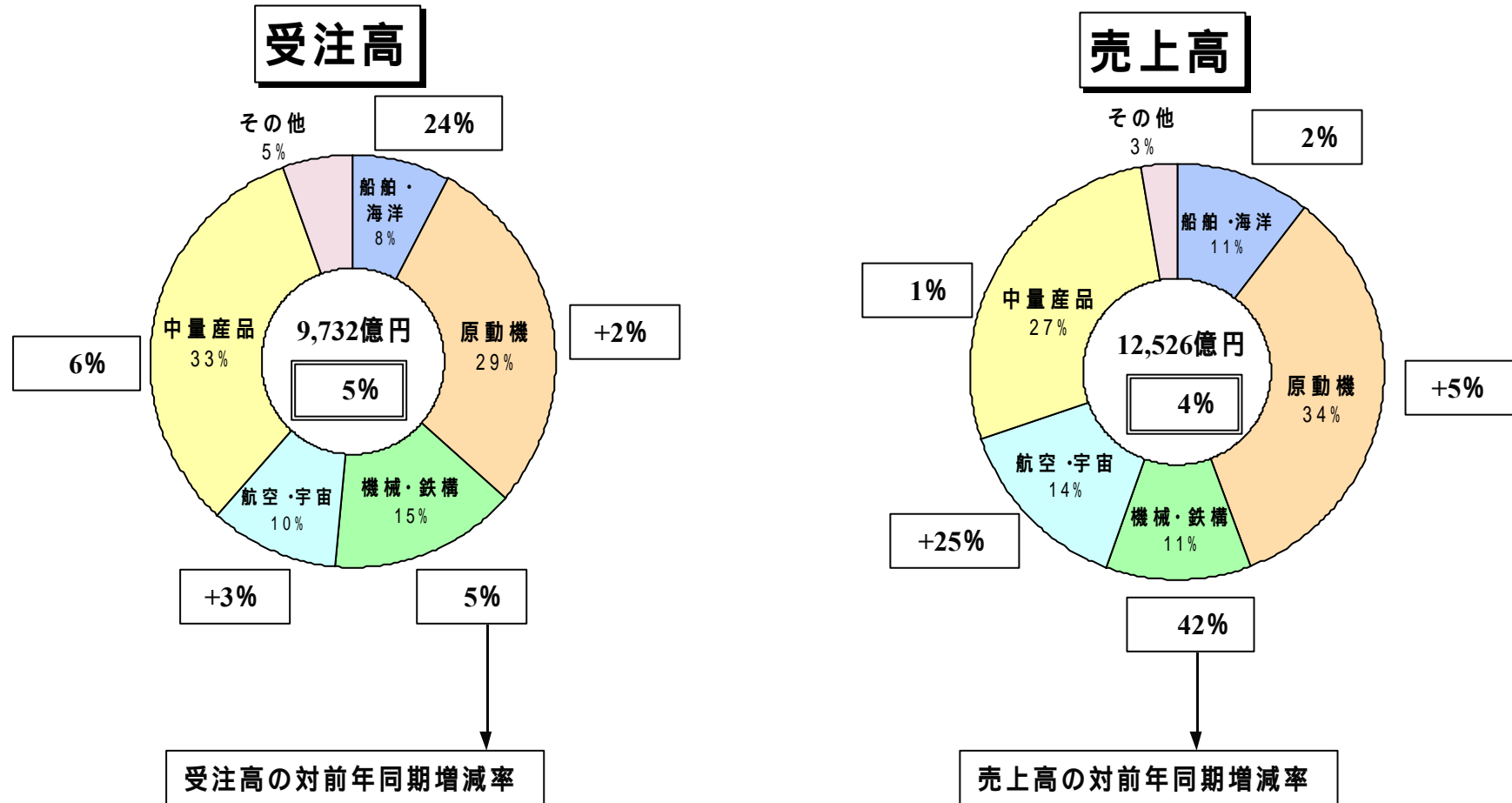
---

営業損益増減 28億円<内、単独+57>

## 経常損益増減要因 81億円

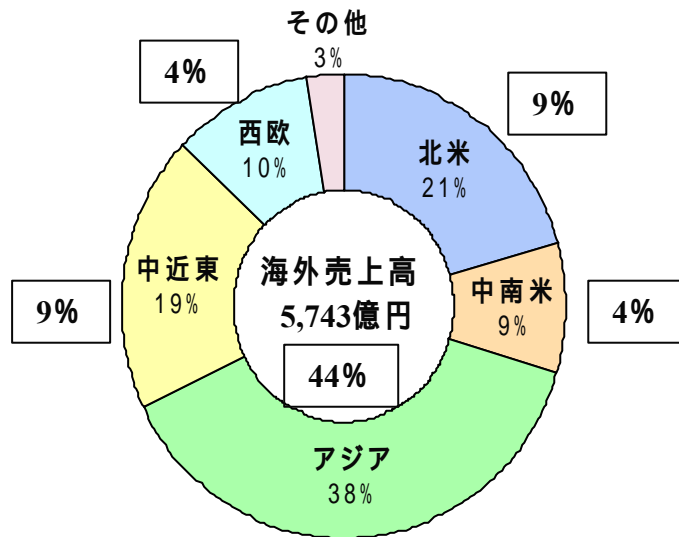
- 営業損益減少 28億円  
(左記の通り)
- 持分法投資損益 37億円  
+7 ('00.1H) 29  
(三菱自 持分 53が経常へ)
- 為替差損益 34億円  
29('00.1H) 64
- 金融費用 8億円  
(配当減少)
- その他営業外 +27億円

# 連結セグメント別の状況(2001年度中間期実績)



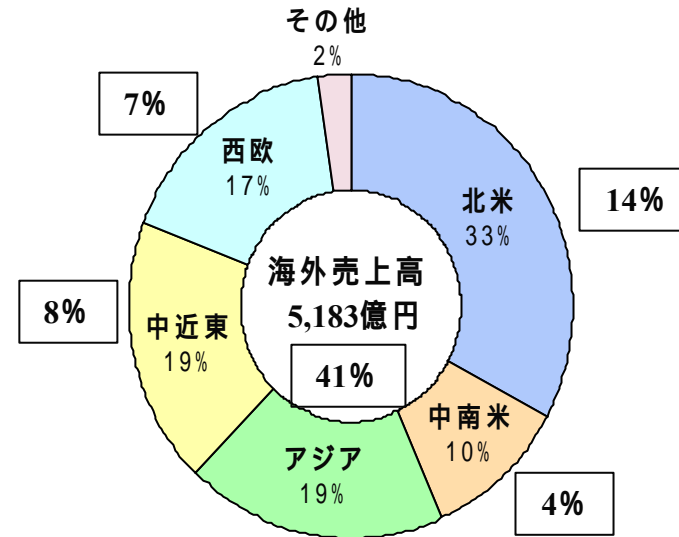
# 海外地域別連結売上高

2000年度中間期実績



17% ↓  
 連結売上高 13,047億円に  
 占める地域別売上高の割合

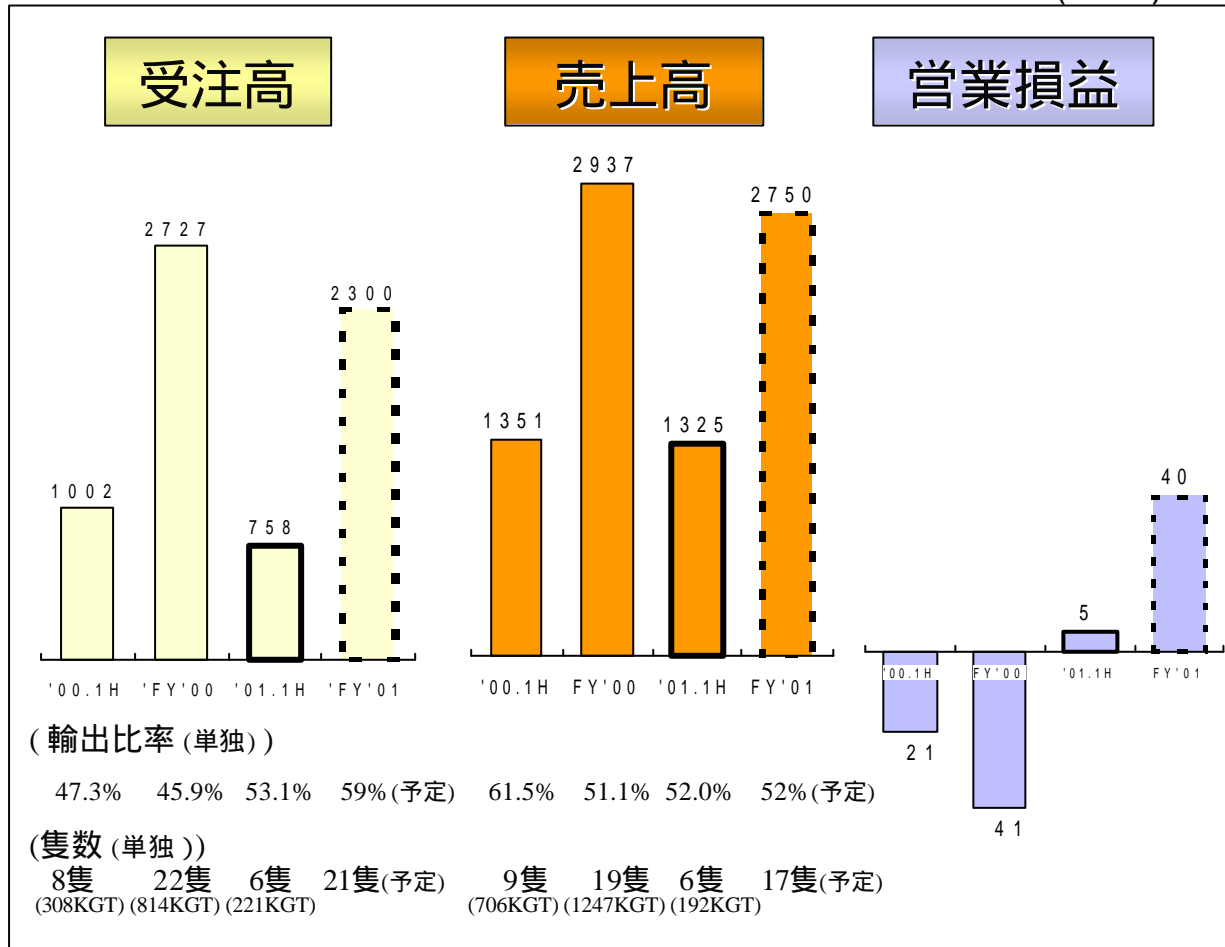
2001年度中間期実績



8% ↓  
 連結売上高 12,526億円に  
 占める地域別売上高の割合

# 船舶・海洋

(億円)



## [事業環境・受注]

- 海運市場は下降局面、LNG船需要は活発
- 船価改善は停滞、依然供給力過剰
- LNG船 1隻、LPG船2隻他、計 6隻受注 (手持 43隻、内 LNG船 9隻)

## [売上/損益]

- 中間期は引渡隻数減で減収となったが円安 (米ドル)、生産性向上により黒字浮上
- 年間でも減収となるが、黒字転換の見通し

## [トピックス]

- 技術力格差で競争力向上(燃費改善で省エネ低コストの経済船型の LNG船・コンテナ船開発)
- 人員削減等固定費圧縮を継続 (事業人員)5,730 5,610 5,380 5,170人 ('99/4) ('00/4) ('01/4) ('02/4予定)

## < 通期業績見通し :受注 /売上 / 損益 >

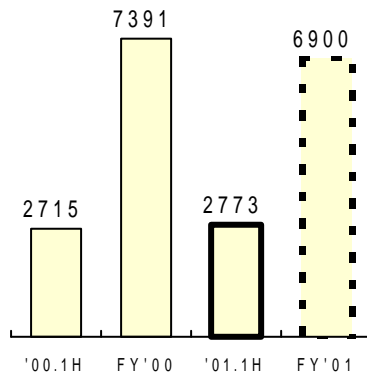
FY'01見通し : 2300 / 2750 / 40  
( 期初 2200 / 2650 / 0)

FY'00実績 : 2727 / 2937 / 41

# 原動機

(億円)

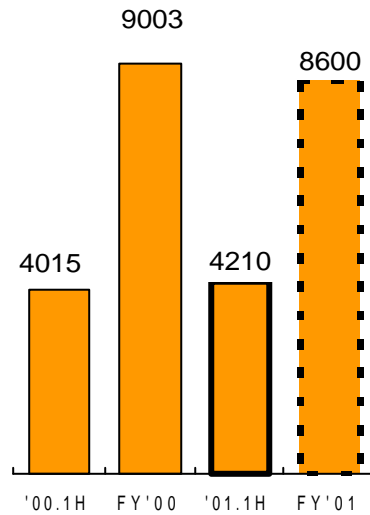
## 受注高



(ガスタービン手持受注台数 (単独))

62台	67台	70台
(内北米向)		
11台	15台	20台

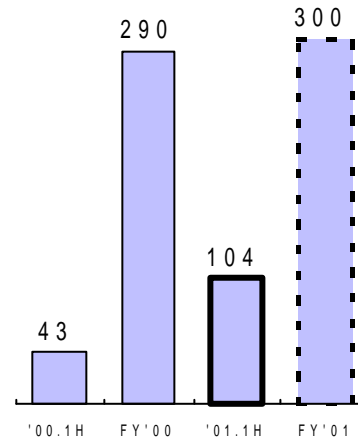
## 売上高



('01.1H対'00.1H増減(単独))

	増減	売上 (億円)
国内事業用	+ 88	(1778)
国内産業用	+114	( 403)
輸出	109	(1767)

## 営業損益



### [事業環境・受注]

- 国内は電力需要・民間設備投資減少を受け、事業用・産業用とも厳しい市場環境
- 海外は米国景気後退の影響で当面減速傾向
- 中間期は北米向を中心に輸出ガスタービンの受注を確保
- 年間ではプラント受注減少の影響で、前年度を下回る見通し

### [売上/損益]

- 中間期は前年同期比、増収増益 (損失引当取崩 370億円)
- 年間では、輸出プラント減少により前年度比減収となるが利益はやや上回る見通し

### [トピックス]

- 米国でのガスタービン需要増に対応し、米国法人を設立・2001.7営業開始
- 原子力 新型軽水炉の共同開発に参加

### < 通期業績見通し：受注 / 売上 / 損益 >

FY'01見通し： **6900 / 8600 / 300**  
(期初 7500 / 7400 / 350)

FY'00実績 : 7391 / 9003 / 290



# 原動機事業の概要

## 事業戦略】

### ガスタービン事業強化

- ・大容量・高効率ガスタービン(G型 蒸気冷却燃焼器採用)で受注拡大  
品質・信頼性・コストのあらゆる面で競合他社を凌駕
- ・米国市場は、新会社MPSを活用し受注拡大  
新会社はH13/7営業開始、メンテナンス工場はH13/12から稼働開始
- ・EPC能力を活かしたコンバインドサイクルプラント一括受注  
東南アジア、中南米、欧州市場等
- ・中期目標：事業規模 2,000億円、世界シェア 15% (G/T単体)

### 石炭発電プラントの競争力強化

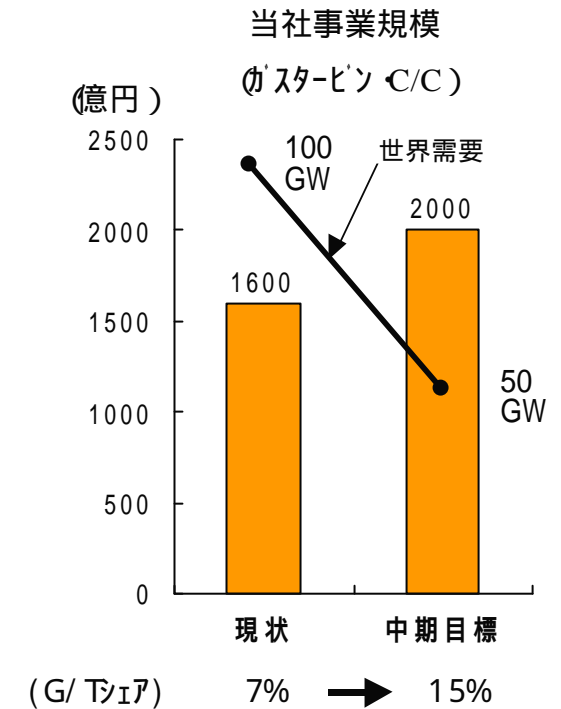
- ・ボイラは環境技術に優れ、高効率且つシンプルな構造による差別化
- ・蒸気タービンは性能向上で受注拡大
- ・石炭ガス化複合発電プラントの開発加速で早期市場投入

### サービス事業拡大

- ・既設リパワリング、リハビリ、ガスタービンLTSA等

### 新製品の事業化及び拡販

- ・太陽電池、大型風車、新型ガスエンジン、燃料電池、新型原子炉等



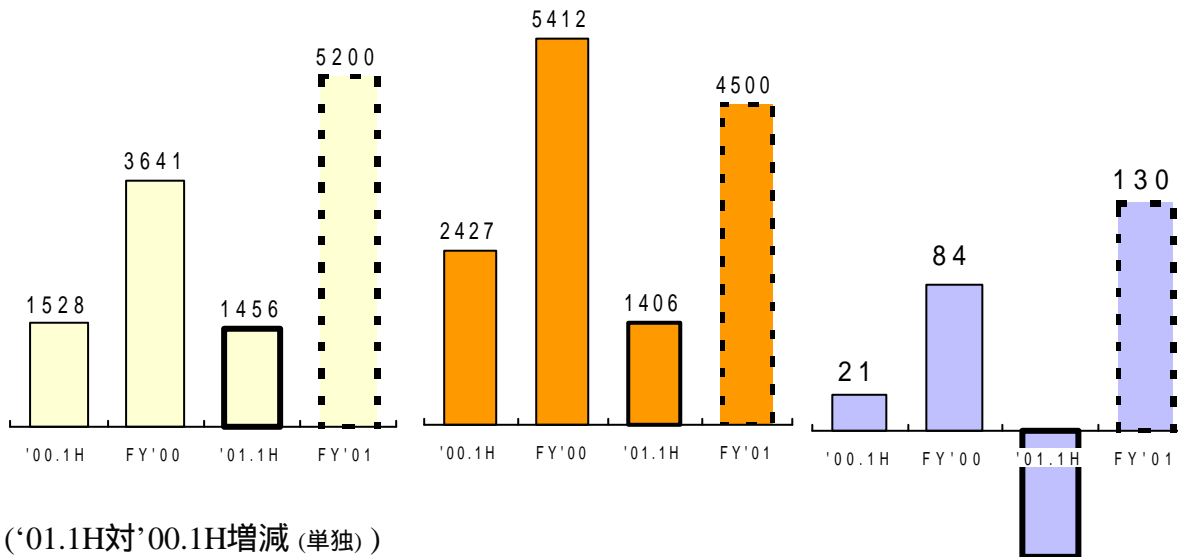
# 機械 鉄構

(億円)

受注高

売上高

営業損益



(‘01.1H対’00.1H増減 (単独))

<受注>		<売上>	
環境装置	242 (287)	環境装置	433 (209)
一般機械	+201 (333)	化学プラント	724 (205)
鉄構	76 (396)	新交通システム	52 (70)

## [事業環境・受注]

- 国内は公共投資・民間設備投資減少で低調
- 海外は東南アジアを中心に新交通システム、環境装置、化学プラント、風力機械の需要増見込み
- 中間期は環境装置等、国内案件が低調で前年同期より減少、年間では、鉄構製品・プラント等の増加により前年度を上回る見通し

## [売上/損益]

- 中間期は輸出化学プラント・国内環境装置等が落込み大幅な減収、固定費回収不足により損益は赤字(損失引当取崩 39億円)
- 年間でも化学プラントの減少により減収見込損益は、前年度を上回る見通し

## [トピックス]

- LNG、新燃料 (GTL、DME)分野の事業拡大
- 環境新分野への進出 (PCB、土壌浄化等)

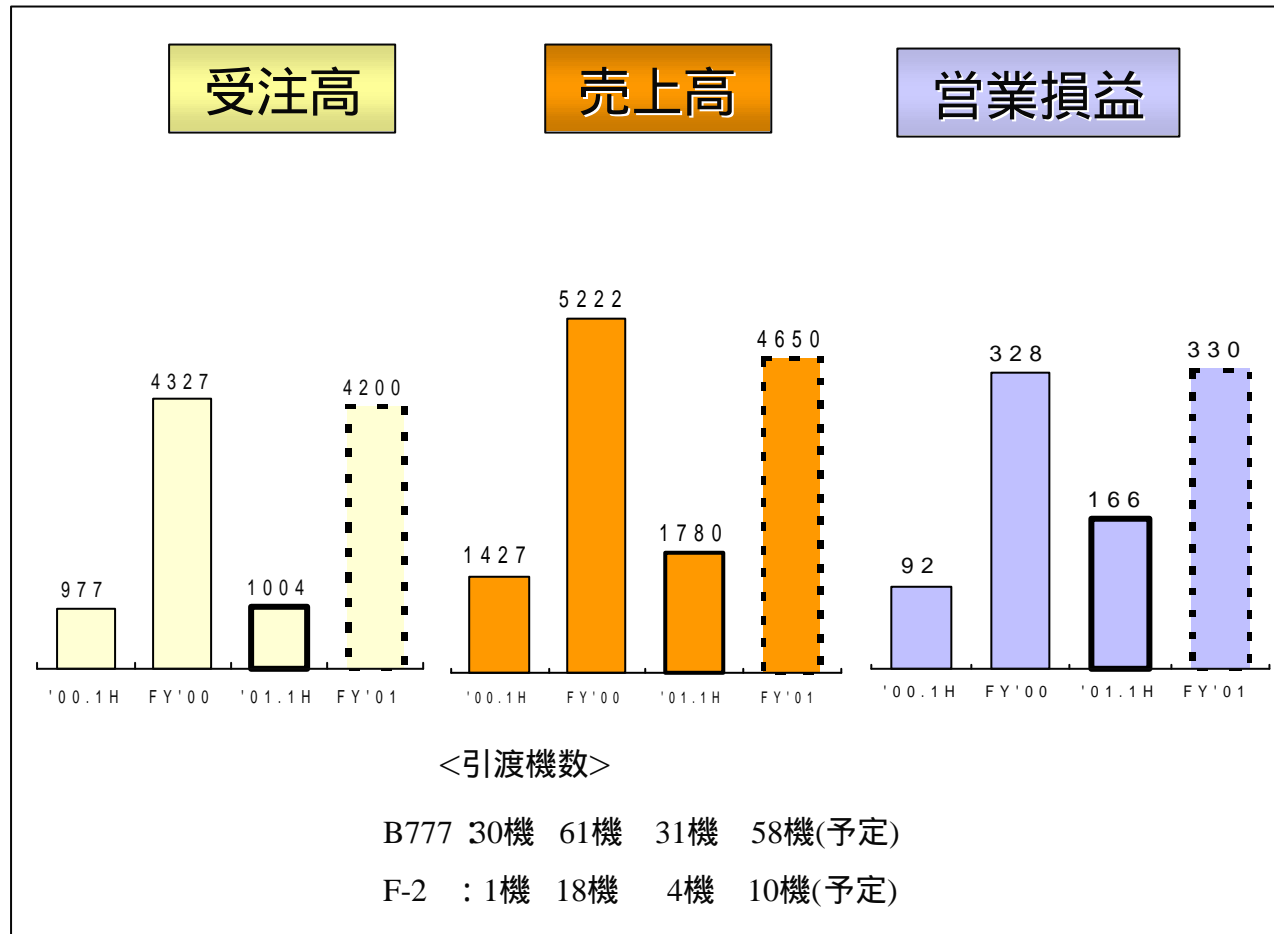
## < 通期業績見通し : 受注 / 売上 / 損益 >

FY'01見通し : 5200 / 4500 / 130  
(期初 4600 / 4600 / 130)

FY'00実績 : 3641 / 5412 / 84

# 航空・宇宙

(億円)



## [事業環境・受注]

- 新中期防初年度として、防衛正面装備予算はほぼ前年並みを確保
- 中間期はB777等民間航空機分野で前年同期並を確保、部門全体でも同レベル

## [売上 / 損益]

- 中間期は円安(米ドル)効果及び防衛庁向の増加により増収・増益
- 年間では防衛庁向F-2の引渡が前年度に集中した影響で減収、損益は横ばいの見通し

## [トピックス]

- 2001.8防衛庁向次期哨戒ヘリ・SH-60J改が初飛行に成功、量産に向けて開発進捗
- 2001.8 当社が開発参画中のボンバルディアビジネスジェット機BD-100が初飛行に成功
- 2001.8 H- A初号機、打上げに成功

## < 通期業績見通し : 受注 / 売上 / 損益 >

FY'01見通し: 4200 / 4650 / 330  
(期初 4300 / 4550 / 270)

FY'00実績 : 4327 / 5222 / 328

# 航空宇宙の事業戦略

## 事業環境】

- ・防衛分野 :中期防衛力整備計画 (H13~ 17)で 戦闘機・ヘリコプタ・ミサイル分野を中心に前期防並みの規模を確保。
- ・宇宙分野 :H- A 打上げ成功。今後、国内市場は官需を中心に一定規模を見込む一方、世界市場は激しい競争。
- ・民間機分野 :テロによる一時的な影響はあるが、中長期的には着実に成長。

## 事業戦略】

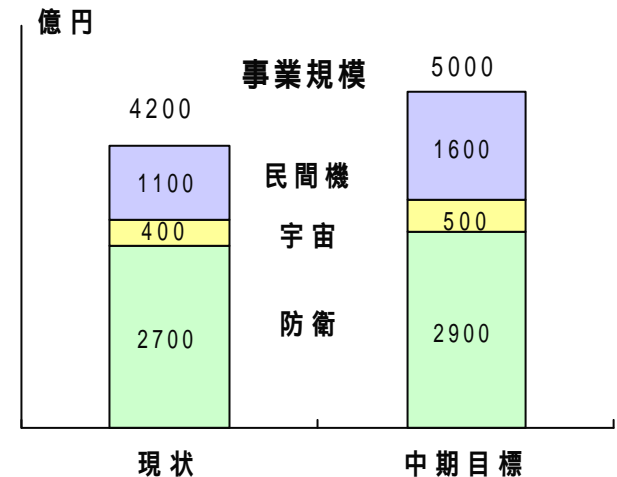
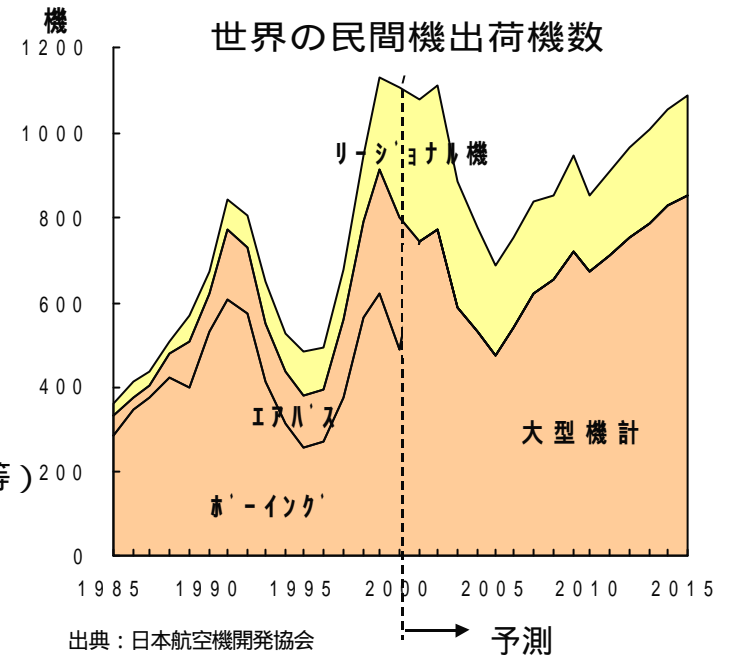
### 防衛・宇宙分野

- 戦闘機を中心に正面装備の着実な生産 後方支援
- 情報RMAに対応した新分野の積極的開拓 (無人機 弾道ミサイル防衛 指揮統制等)
- H - Aの信頼性向上でロケットの産業化促進
- 宇宙分野でのボーイングアライアンス拡大 (MB - XXエンジンの輸出等)

RMA :Revolution in Military Affairs

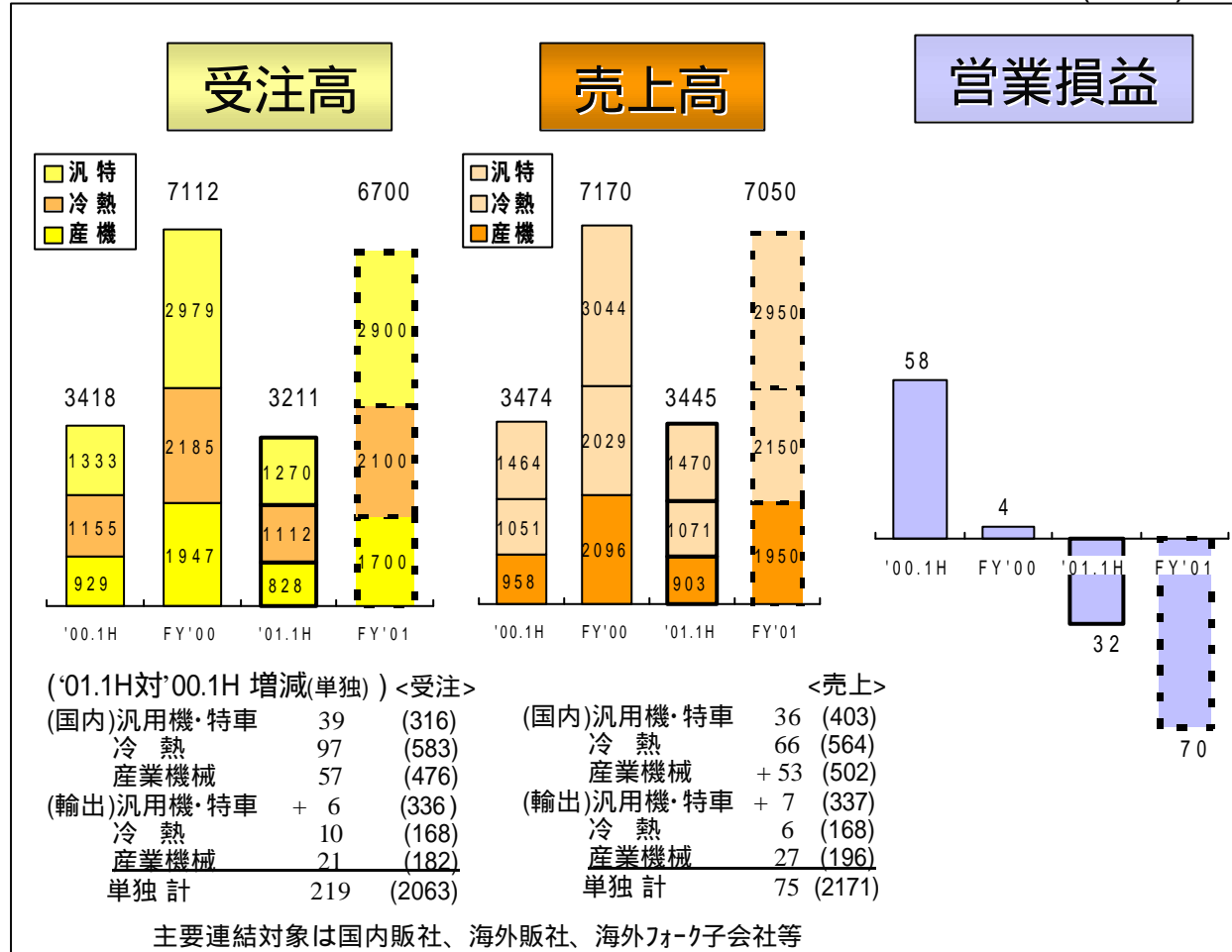
### 民間機 (含むエンジン) 分野

- 民間機 :ボーイングとのアライアンスを軸に、世界市場に向け事業拡大
  - ・777/ 767等は新規部位 新規分野の取込みで当面の減少カバーし、規模確保
  - ・ソニッククルーザー等新規プロジェクトは、機体形状、飛行制御、複合材構造等の当社得意分野で事業参画。企画・仕様等上流作業にも参画。
- エンジン :開発エンジン参画と新規下請 修理等で事業拡大
  - ・プラットアンドホイットニーとの関係を活かし、新規開発エンジンへの設計を含めた参画
  - ・ロールスロイス、GE等から新規部品下請拡大
  - ・エンジンメーカーやエアラインとの協業を通じ、修理事業拡大



# 中量産品

(億円)



## [事業環境・受注]

- 世界的な景気低迷で国内・海外とも市場環境が悪化
- 中間期は、印刷機械を除く産業機械・冷熱・汎用機とも不振で前年同期より減少
- 年間でも前年度より減少の見込み

## [売上/損益]

- 為替円安の影響あるものの、中間期は販売価格の下落で減収・減益(赤字)
- 年間でも、受注 価格下落回復の見込みがたたず、減収・減益(赤字)の見通し

## [トピックス]

- 米国円の影響で北米向受注が急激に減少
- 分散型電源市場への対応 (マイクロスタビピン開発、販売・サービス体制拡充)
- ターボ増産・事業拡大の推進 (欧州市場のシェア確保)

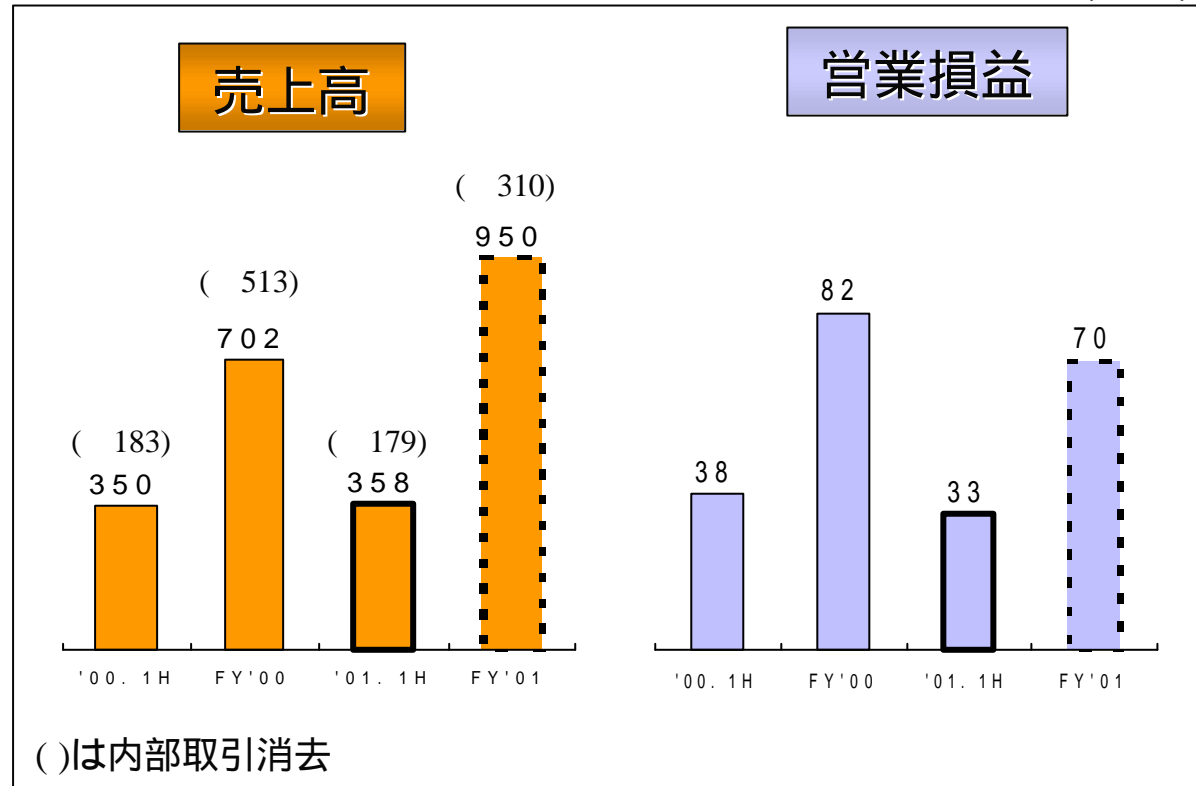
## <通期業績見通し:受注/売上/損益>

FY'01見通し: **6700 / 7050 / 70**  
(期初 7200 / 7350 / 80)

FY'00実績 : **7112 / 7170 / 4**

# その他

(億円)



- ・ 建築・不動産
- ・ 情報・通信サービス
- 他

<通期業績見通し:売上 / 損益>

FY'01見通し **950 / 70**  
( 期初 950 / 70)

FY'00実績 **702 / 82**

# 米国同時テロの影響について

【現況】 米国同時テロ及び米国経済失速に伴い、受注減少の見通し  
 ・民間航空機減産による受注 売上減少の懸念 < 航空・宇宙 >  
 ・北米向け未受注案件の繰り延べ、及び受注・売上減少の懸念  
 < 原動機、機械 鉄構、中量産品 >

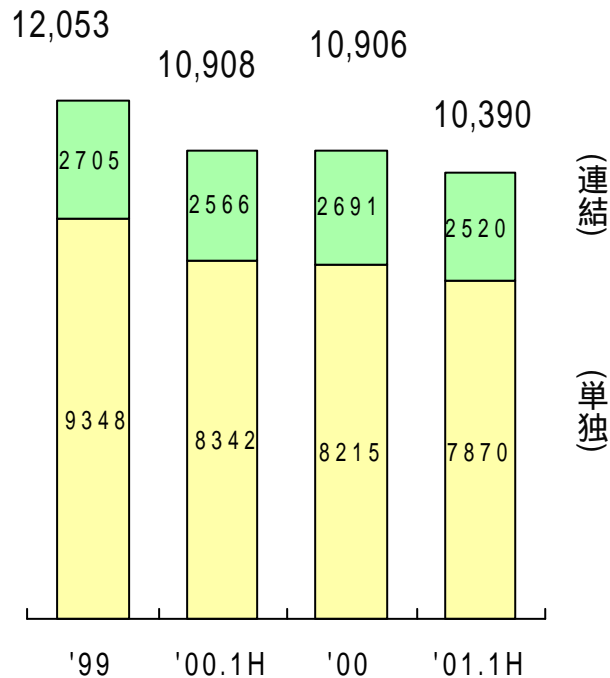
【セグメント別 受注・売上～影響懸念額集計】

(11月15日時点 / 億円)

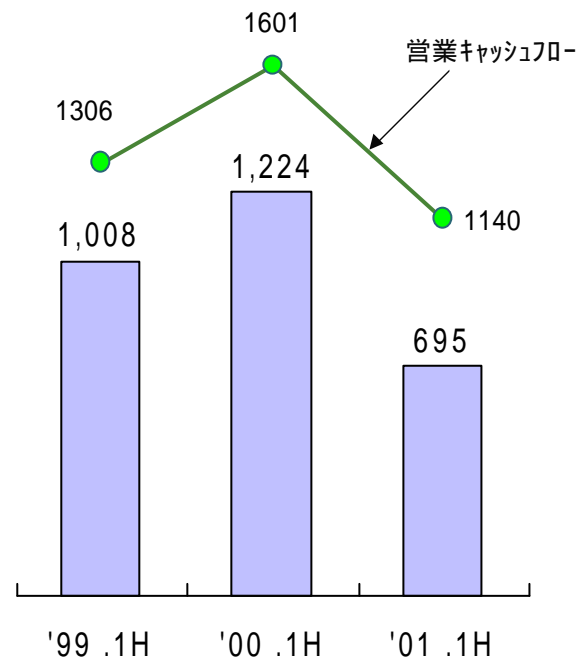
セグメント	2001年度		2002年度以降		主要案件
	受注	売上	受注	売上	
船舶・海洋	0	0	0	0	
原動機	725	0	725	0	北米向ガスタービン 受注繰延べ懸念
機械・鉄構	120	0	120	0	北米・機械関連案件 計画遅延懸念
航空・宇宙	100	10	100	190	民間航空機減産懸念
中量産品	80	50	160	190	北米向案件 受注減懸念
合計	1,025	60	585	380	

# 有利子負債・フリーキャッシュフロー

有利子負債 (億円)



フリーキャッシュフロー (億円)



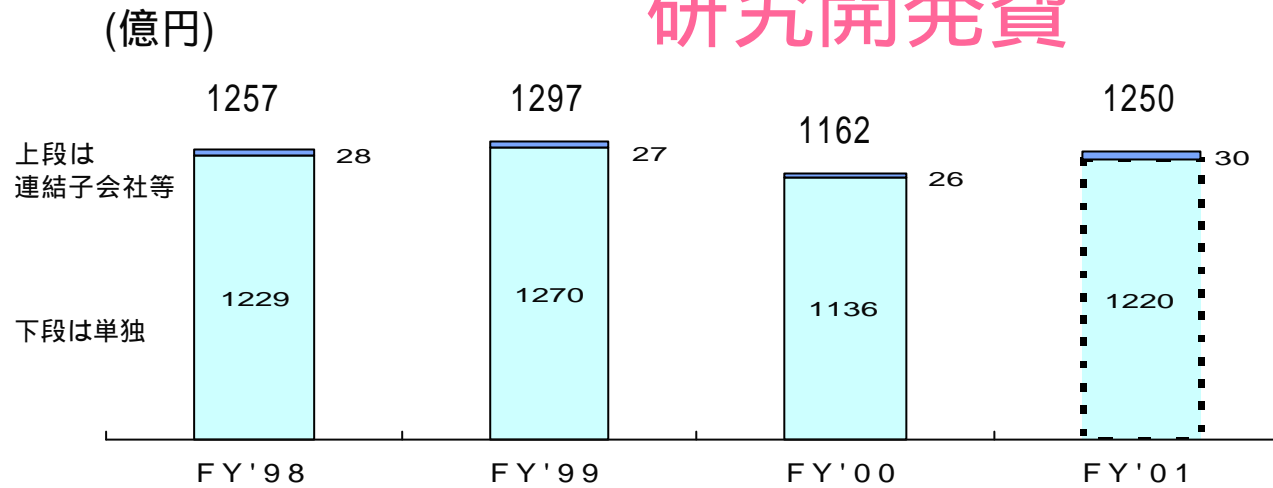
## ‘01中間期の概要

•営業キャッシュフローは1,140億円のプラスとなり、これに投資キャッシュフロー( 445億円)を加えたフリーキャッシュフローも695億円のプラスとなった。

•これにより借入金の返済を押し進め、‘00末より有利子負債を 516億円圧縮した。

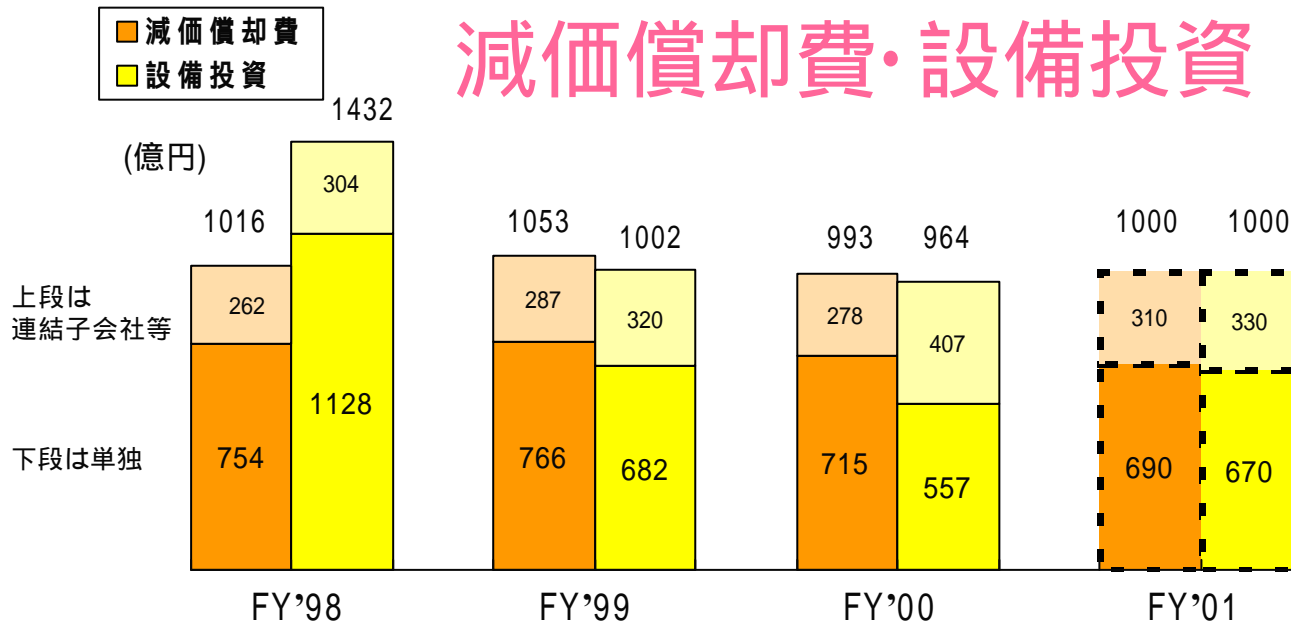


# 研究開発費



(原動機)  
H形ガスタービン  
他

# 減価償却費・設備投資



(原動機)  
ガスタービン増産対応  
・太陽電池製造設備  
他

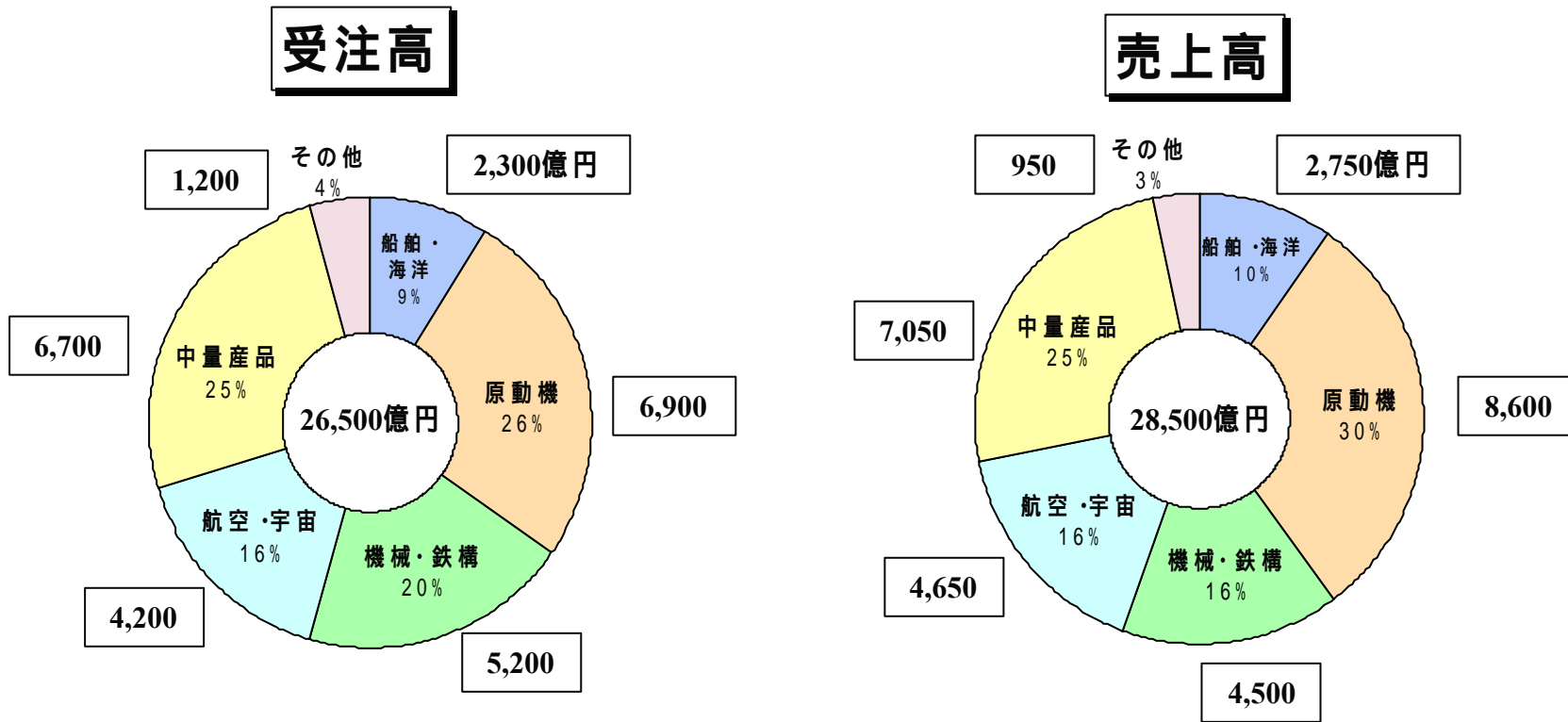
# 2001年度 単独中間決算の概要

(億円)

	'01中間	'00中間	増減
受注高	7,566	8,048	482
売上高	10,379	11,249	869
営業損益	161	103	57
経常損益	62	11	51
特別損益	131	136	5
税引前損益	68	125	56
当期損益	17	61	43

特別損益( 131)の内訳 投資有価証券等評価損 153  
 投資有価証券売却益 + 21

# 連結セグメント別・2001年度見通し



# 2001年度 通期の業績見通し(1)

(億円)

(連結)	期初見通し	今回	増減	'00実績
受注高	27,000	26,500	500	26,403
売上高	27,500	28,500	1,000	30,450
営業損益	900	800	100	748
経常損益	700	550	150	632
税引前損益	450	400	50	51
当年度損益	200	200	-	203

為替レートは 1ドル=@ ¥ 120, 1円=@ ¥ 105 の前提。(未確定19億ドル, 2億1円)

<期初見通しからの増減内訳>

受注高 ( - 500) : 機・鉄+600、船海+100、原動機 600、中量産品 500、航空宇宙 100

売上高 (+ 1000) : 原動機+1200、船海+100、航空宇宙+100、中量産品 300、機・鉄 100

営業損益( - 100) : 航空宇宙+60、船海+40、中量産品 150、原動機 50

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

## 2001年度 通期の業績見通し(2)

(億円)

(単独)	期初見通し	今回	増減	'00実績
受注高	22,000	22,000	-	22,138
売上高	23,200	24,200	1,000	26,377
営業損益	700	670	30	528
経常損益	550	470	80	465
税引前損益	300	320	20	244
当年度損益	150	150	-	150

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。